

リーディングDXスクール事業【実践事例】

春日井市立藤山台中学校（愛知県）【指定校】

【取組内容】① めあての共有と個別最適な学びを促すための振り返りの価値づけ

生徒が、個別最適な学びをすすめるため、毎時間「めあて」の設定を行う。自らの課題を発見し、単元の目標を達成するために、自分の学ぶ内容を自分で決める。ただし、自分自身の課題が見つけれない生徒もいるため、「めあて」をクラウド上で共有し、他者を参照しながら自分のめあてを考えられるようにしている。

また、生徒は自ら設定した「めあて」に沿って学びを進め、授業の最後に振り返りを書く。生徒が書いた振り返りに対して、教師がコメント機能を活用して、価値づけを行う。そうすることで、生徒は自らの成果と課題を把握しさらに個別最適な学びへと進み、教師は生徒のつまづきを把握して支援することができる。

4時間目 めあて：パフォーマンス課題に取り組み、Aをとれるように直しをする。

今回の授業ではパフォーマンス課題に取り組み、2つの文章の違いの理由についてがわかりました。私は書いてみて、2つの文章が大きく違う点がたくさんあるのは、筆者が読者に「最後の晩餐」の何を伝えたいのかに違いがあるからだと思いました。なぜなら、そこが違えば文章の種類にも着眼点にも違いが出てくるからです。

次の授業ではパフォーマンス課題を完成させます。

私は2つの文章を主観して、自分の考えを述べる。
まず、最初に文章の種類で比較をする。「彼は『最後の晩餐』を知っているか」は評論文であり筆者の意見が明瞭に記述されていて、「『最後の晩餐』の朝しき」は解説文であり意見は書かれておらず客観的視点で作品の解説をしている。
次に、文章全体のテーマ。「彼は『最後の晩餐』を知っているか」は作品全体の魅力について述べており、「『最後の晩餐』の朝しき」は作品の描き方や構図について述べている。
最後に、筆者が伝えたい立場について比較する。「彼は『最後の晩餐』を知っているか」は「芸術は永遠なのだ。」を主張していて、筆者の感情が文中でも大きく現れていると思う。「『最後の晩餐』の朝しき」は「レオナルドの『最後の晩餐』は、何よりその朝しきで人々を驚かせ、震やしたのだ。」となっており、作品の魅力を、第一筆者の感情が現れていると思う。
このように2つの文章には違いがある。その違いは筆者が読者に「最後の晩餐」の何を伝えたいのかに大きな違いがあるからだ。

教師名

かなり具体的に、違いについてまとめることができましたね。ループブックを確認しながらP課題をすすめましょう。

- 生徒A 3月20日, 10:58
- 生徒A 本文を批判的に読んで情報を収集する
- 生徒B 3月20日, 10:58
- 生徒B 構成や展開をまとめ、筆者の意見を明確にしよう。
- 生徒C 3月20日, 10:59
- 生徒C モアイについて調べ、本文を批判的に読む
- 生徒D 3月20日, 10:59
- 生徒D 本文を批判的な視点で読み、筆者の意見と比較してみる。
- 生徒E 1月20日, 10:59
- 生徒E モアイを批判的に読む